

企業名：豊田合成株式会社

レポート名：豊田合成レポート 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

今回の統合レポート全体を通して、脱炭素社会を目指したカーボンニュートラル戦略、SDGs への貢献、IoT と AI 活用による業務プロセスの向上等を会社として目指しているのがよく伝わってきた。また、それらを実現するための技術や能力も有しているように見受けられたので将来性も期待できるのではないだろうか。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

競争優位性として本レポートでは「新規事業開発の経験」「グローバルネットワーク」「ゴム・樹脂分野の知見」が挙げられているが、やや弱いのではないかと感じる。現代においてグローバルネットワークはもはや企業運営において前提とも言える存在であり、世界に事業を拡大している豊田合成にとっての重要性は理解できるものの、改めてレポートに記載する内容ではないと考える。

その他2つの点に関しては、実際にそれまでの製品開発の知見を活かしてコロナ禍にUV-CLED を用いた除菌装置を開発しており、現代の問題に早急に応用を利かせることができるのは強みだと言える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

ゴム・樹脂を主に扱う製造業として、ゴム製品の開発は近年ないようだが、樹脂製品の開発は進んでおり、新規事業の LED 分野でも開発に進展が見られることから一定の開発能力を有しており、競争優位性について数年ほどは保障されているのではないと思う。そもそも豊田合成が扱う製品の多くが車両部品であるため、車市場が縮小せず安定した製造ラインを確保できる限り企業としては安泰なのだろうが、情勢変化に伴う社会の需要に応えられるだけの発明力は欠かせないため、能力の向上に努めてほしい。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

若手育成、デジタル人材・グローバル人材の育成など社員の育成が幅広く行われているのは判るが、やや具体性に欠ける内容だとは感じた。例として「グローバル経営幹部候補の育成」【P.54】について言えば、企業側が必要とする人材の特徴を挙げるに留まり、具体的にどのような指導を行うのか、海外研修に行かせたりするのか、それとも言語能力を伸ばすために外国語検定を受けさせたりするのか、書いてある内容からは判らない。豊田合成が能力育成に本当に力を入れているのか否か見定めたい人からすると不満が残るよう

に思う。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

目についた点として、「多様な人材の活躍」【P.56】に女性の活躍促進を挙げていることに多少引っ掛かりを覚える。女性のスキルアップ自体普通となりつつある現代、敢えて「多様な人材」と称して女性の活躍具合を声高に掲げる必要はないと考える。「企業の潜在意識に製造業に女性が向かないという意識があるのではないか」と捉えられる可能性もなくはないからだ。とは言っても、キャリアアップを支援していることを伝えること自体の重要性は理解するので、例えば「人材育成の促進」【P.54】の欄などに入れるのも良いのではないだろうか。